

理想的なお金の使い方

香川県・高松市立牟礼中学校 2年 細川 莉穂

おこづかいをもらうと、すぐに何かを買ってしまう私。こんな私が、自分のお金の使い方を見直そうと思ったのは、新聞のある記事を読んだことがきっかけだった。

ある朝、私が新聞を読んでいるとパッと目についた記事があった。それは、90歳のおばあさんが「自分が東日本大震災で被災された方々にできること」をテーマに書いていた投書欄だった。「私が被災された方々にできることは募金です。一度にたくさんのお金を募金することはできませんが、毎月何千円かずつ、継続的に募金をしていきたいです」と、このようなことが書かれていた。私は、「継続的に」という言葉を見てハッとしました。私も以前、被災された方々に募金をしたことがあった。しかし、たった一度しか募金をしなかったのに、「被災された方々の役に立ててよかった」と自己満足してしまっていた。自分の欲しいものはいくつも買うのに、募金を一度しかせず、それで満足していた自分が恥ずかしく、腹立たしかった。私は、今まで自分のことばかりにお金を使っていた。おばあさんのように、人のためになるお金の使い方ができていなかった。被災された方々は、今でも生活に必要なものがそろわず、大変不便な生活をされていると思う。だから、自分だけがわがままな生活をするのではなく、被災された方々が少しでも元の生活に戻れるように協力することが大切だと思った。私は、この機会に自分のお金の使い方を見直すことにした。

「おこづかいは自分のものだから、これ買っていいか」と、おこづかいを自分のものだと勘違かんちがいしていた。すぐに何かを買い、あきっぽい性格の私は買った物を使わなくなるという悪循環あくじゆんかんになっていた。いくら、おこづかいを自分で持っても、それは自分のものではない。それは、両親が朝早くから夜遅くまで働いてくれたからこそあるお金なのだ。そんなお金の重みを感じていなかった。これから、お金を大切に使うため、私は対策を考えてみた。

私はもっとお金の価値について考えるべきだと思う。私たち日本と世界の国々

では、もちろんお金の価値がちがう。日本では、小さい金額でも、貧しい国ではワクチンや薬を買える。自分がいつも惜しげなく使っているお金がたまると何人もの命を救うことができていたのだ。だから、少しのお金でも、大切さ、貴重さを忘れないようにしたい。

この記事を読んで、もう一つ考えさせられたことがある。それはお金の役目についてだ。私は、お金は物を買うためだけのものだと思っていた。しかし、今回記事を読み、お金は人の気持ちや力も一緒に届けることができるものだと感じた。今、全国各地で募金活動がさかんに行われている。募金はたくさんの人々の気持ちがこもったすばらしいもので、それを被災された方々や被災地に役に立つものにして届けることができる。こんな募金活動をこれからもどんどん行って募金できる場を増やして欲しい。

このように、お金について考えていると、自分が改善しなくてはならないことが見えてきた。私が改善しなくてはいけないのは、お金の使い方だ。必要最低限にお金を使うこともお金を大切に使うことにつながるが、私は、物を大事に使うこともお金を大切に使うことにつながると思う。私はいつも、物をあまり大事に使えていなかった。文房具をすぐに使い切ったり、物をなくすということがよくある。このような場合、もう一度買わなくてはいけなくなり、余計なお金を使ってしまう。だから、自分の物をていねいに扱って、なくさないようにきちんと管理したい。

お金の使い方はたくさんあって、自分だけの役に立ったり、募金のようにたくさんの人役に立てることもある。同じだけのお金を使うとしても、たくさんの人役に立つ方がよいと思う。私は、おばあさんのように人のためになるお金の使い方が理想的なお金の使い方だと思う。今、日本は東日本大震災という困難に直面している。こんな時期だからこそ、普段は「我慢する」ということを心掛け、本当に必要な時以外は使わないという強い意志を持つことが必要になってくると感じている。

お金というものは、空中に浮いているしゃぼん玉のような存在である。人がむやみやたらに触れれば触れるほど、すぐに消えてなくなってしまう。そんなはかなく貴重なお金だからこそ、私たちがお金の持つ短所と長所の両方を知り一人一人がもっと大切に扱うことで、お金が困難に陥った時に役立つ最高の道具となるだろう。

みんなのために……そして自分のために……もっとお金のあり方を今後も考えていきたいと思う。これから、生きていく間よりよく生活していくために……。